



平成 21 年 5 月 29 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン  
(JASDAQ・コード番号：2776)  
代表者名 代表取締役社長 茂木眞一  
問合せ先 取締役副社長 中川純夫  
電 話 03-5637-0505

特別損失の発生と平成 22 年 1 月期業績予想(連結・個別)の修正のお知らせ

当社は平成 22 年 1 月期(平成 21 年 2 月 1 日～平成 22 年 1 月 31 日)第 1 四半期(平成 21 年 2 月 1 日～平成 21 年 4 月 30 日)において特別損失を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせするとともに平成 21 年 3 月 13 日付「平成 21 年 1 月期決算短信」にて公表しました業績予想(連結・個別)を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生について

当社は平成 22 年 1 月期第 1 四半期において、連結子会社であるパイオニアトレーディング株式会社の業績不振により純資産額が減少したため、関係会社株式評価損として 84 百万円を計上しました。

2. 業績予想の修正について

(1) 連結業績予想 平成 22 年 1 月期(平成 21 年 2 月 1 日～平成 22 年 1 月 31 日)

第 2 四半期連結累計期間

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	6,160	160	110	68
今回修正予想 (B)	4,650	△75	△125	△175
増減額 (B-A)	△1,510	△235	△235	△243
増減率	△24.5	—	—	—
(ご参考)				
前期実績(平成 21 年 1 月期)	6,122	△117	△160	△197

通期

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	12,800	350	250	150
今回修正予想 (B)	9,500	250	150	50
増減額 (B-A)	△3,300	△100	△100	△100
増減率	△25.7	△28.5	△40.0	△66.6
(ご参考)				
前期実績(平成 21 年 1 月期)	12,375	93	4	71

## (2)個別業績予想 平成22年1月期(平成21年2月1日～平成22年1月31日)

第2四半期累計期間

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	5,500	160	110	68
今回修正予想 (B)	4,132	△42	△92	△142
増減額 (B-A)	△1,368	△202	△202	△210
増減率	△24.8	—	—	—
(ご参考)				
前期実績(平成21年1月期)	5,409	35	34	2

通期

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	11,400	350	250	150
今回修正予想 (B)	8,982	283	183	83
増減額 (B-A)	△2,418	△67	△67	△67
増減率	△21.2	△19.1	△26.8	△44.6
(ご参考)				
前期実績(平成21年1月期)	11,103	387	381	124

## 3.業績予想修正の理由

米国発の金融危機に始まる世界同時不況以降、雇用情勢の悪化や個人所得の減少等に伴う生活防衛意識が高まり、個人消費の冷え込みが第1四半期の業績に影響しました。

主軸の卸売事業では、初回商品投入に関しては当初予想どおり推移したものの、3月度、4月度の追加発注が予測を下回りました。また市場における低価格志向の強まりにより、プロパー(正規品)販売率の低下が販売単価ダウンに影響し売上高前年比82.4%となりました。

小売事業においても2月度の立ち上がりに苦戦し、3月度の実需要期以降も売上回復の見通しが厳しいと判断し売上高の確保と在庫の圧縮を優先しセール販売を強化しました。その結果販売単価が低下し、売上高前年比は64.5%となりました。

ライセンス事業では大手GMS等の商品開発によるPB化傾向が一層強まり主力アイテムである生活必需品のシェアの低下が影響し売上高前年比で66.5%となりました。

以上の結果から第2四半期の業績につきましては、現状の趨勢と個人消費等を含めたマーケット状況を踏まえ卸売事業が約1,200百万円、小売事業が約200百万円、ライセンス事業が110百万円当初予想を下回る見通しとなったため、連結売上高の予想を4,650百万円と修正しました。

販売費及び一般管理費については、物流センターの集約や不採算店舗の閉店による地代家賃関連費や人件費等を削減をすることが出来ましたが、売上総利益額の減少をカバーできず、利益額も当初計画を下回る結果となりました。

また第2四半期以降の業績については以下の理由で保守的に勘案することとしました。まず卸売事業においては取引先小売店からの受注が例年に比べ遅く、実需要期近くまで受注が引き付けられる傾向がより強くなってきており、シーズン立ち上がりに大きな影響を与えると考え保守的に見通さざるを得なくなりました。小売事業においては店舗における採算性を重視し効率改善に向けて不採算店舗の整理を行い売上げが縮小する見込みです。

売上高が当初予測した金額を下回る見込みとなったことにより、売上総利益額も当初予測した金額を下回ることとなります。販売費及び一般管理費につきましては売上変動費は当初見込みを下回ることとなるものの、固定費を含むその他販売費及び一般管理費が売上総利益額の下落金額をカバーすることが出来ないため、営業利益、経常利益、当期純利益ともに当初予測を下回ることとなりました。

尚、個別業績予想の修正につきましては本日開示しております「パイオニアトレーディング株式会社の吸収合併に関するお知らせ」もその要因となっております。

以上